

授業科目	症状別援助技術	単位数	1 単位		講師名	看護教員
		時間数	30 時間			
学年	1 学年		履修期	後期		
授業の目標	1. その人に起こった症状を理解し、疾患によってもたらせる症状を緩和・軽減する方法を学ぶ。 2. 専門職業人としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。					
授業内容 (授業計画)	1. 疾患と徴候 1) 高体温、低体温 (1) 罨法の種類と適応 (2) 温罨法：演習 (3) 冷罨法：演習 体温調整のための方法 2) 咳嗽、喀痰 3) 呼吸困難 (1) 酸素療法の原則 (2) 酸素ボンベ (3) 酸素流量計 (4) 鼻腔カニューラ (5) 酸素マスク (6) 口腔内・鼻腔内吸引：技術試験 口腔内・鼻腔内吸引の適応と方法 (7) 気管内吸引 (8) 体位ドレナージ 排痰法の適応と方法 4) 腹痛、腹部膨満 5) 下痢 6) 便秘 (1) 自然な排泄を促す援助 7) 乏尿、無尿、頻尿、多尿 (1) 自然な排泄が困難な人への援助 導尿・膀胱留置カテーテル挿入・無菌操作含む					
評価方法	1. 筆記試験 2. 技術試験 3. 課題提出					
注意事項	症状の起こるメカニズムを振り返りながら症状に対する看護を話しあっていきます。関係するテキストの持参が必要。(解剖生理学・呼吸器・循環器・腎泌尿器ほか)					
教科書	1. 看護過程に沿った対症看護 (学研メディカル秀潤社) 2. 系統看護学講座 専門分野 I [3] 基礎看護技術 I (医学書院) 3. 系統看護学講座 専門分野 I [4] 基礎看護技術 II (医学書院) 4. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)					
参考図書	1. 新体系 看護学全書 別巻 15 看護技術の患者への適用 (メヂカルフレンド社) 2. 実践フィジカルアセスメント 看護者としての基礎技術 第3版 (金原出版)					